

但馬地方のヤチグモ属

山本一幸*

植木や草の上に棚網を作るクサグモ (*Agelena limbata*) は人の目によく付き、名前は知らないまでも見たことのある人は多いと思う。しかし、このクサグモと同じタナグモ科 (*Agelenidae*) に含まれるヤチグモ属 (*Coelotes*) はほとんど知られておらず、目に付くことも稀である。それはこのクモの生息する環境が人の目に届きにくい場所、つまり森林の落葉の下やガレ場の石の間、洞穴、ガレ地の岩の割目、倉庫の物影など、比較的暗い場所で、そういった環境に適応した生活や形態を発達させているからである。

ヤチグモ属の場合、クモ類特有の分散方法であるバルーニング^{**}行動をとらない。そのため一定地域にしか分布しない種や、地域的な変異が生じている種が存在する。

但馬地方のヤチグモ属に関しては筆者が「兵庫県北西部に産するヤチグモ属 (予報)」と題してすでに ATYPUS, No. 77 (1980) で13種を発表している。今回はそれ以降の調査の経過を含め、ヤチグモについて関心を深めてもらう意味で述べることにする。

・但馬での変異と分布

日本に生息するヤチグモ属は現在までに26種が記録されており、但馬地方では次の13種が見つかった。

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ・ホラズミヤチグモ | <i>Coelotes antri</i> |
| ・ウスイロヤチグモ | <i>C. decolor</i> |
| ・ダイセンヤチグモ | <i>C. eharai</i> |
| ・クロヤチグモ | <i>C. exitialis</i> |
| ・イナバヤチグモ | <i>C. inabaensis</i> |
| ・シモフリヤチグモ | <i>C. insidiosus</i> |
| ・ヒメシモフリヤチグモ | <i>C. interunus</i> |
| ・メガネヤチグモ | <i>C. luctuosus</i> |
| ・ヒメヤマヤチグモ | <i>C. michikoae</i> |
| ・ヤマヤチグモ | <i>C. modestus</i> |

* 現住所 〒669-67 兵庫県美方郡浜坂町。

** ヤチグモもしくは小型のクモが広範囲な移動をする際に行う行動で、安定した上昇気流の発生するような天候の時に、高い場所に登り腹部を空に向けて突き出して糸尻から空中に糸を流し、その糸の浮力により空中を飛行する。

但馬地方のヤチグモ

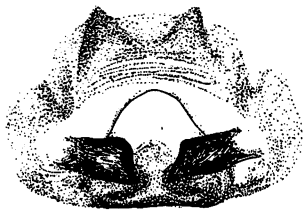
- ・カメンヤチグモ C. *personatus*
- ・ヒメヤチグモ C. *tarumii*
- ・カミガタヤチグモ C. *yaginumai*

ヤチグモ属の活動が盛んになるのは、他の多くのクモ達が姿を見せなくなる秋から冬にかけてである。この時季には成熟した個体が多く採集される。

同定をする場合、未成熟の個体は体の色や形態が類似しているため、種の決定がきわめて困難な場合がある。そこで種の特徴が顕著に表われる成体の生殖器官が重要視されるわけであるが、それさえも次のような種では変異が見られる。

クロヤチグモは全国的に分布する種であるが、特に雌の外部生殖器官 (Epigynum) や雄の触肢先端 (Palp) の構造に地域によって変異が生じている (西川, 1975)。

但馬地方で採集されるものには2つの変異のタイプが見られ、美方郡などの北西部のものと豊岡市から東部のものとでは多少異なる。前者を西川 (1975) の調査結果と比較してみると、鳥取県大山産のものと共通した型を示している。



クロヤチグモ (香住町大根産) 雌の外部生殖器官



ヤマヤチグモ (淡坂町久斗山産) 雌の外部生殖器官



ヤマヤチグモとヒメヤチグモの中間的なタイプ (村岡町萩山産) 雌の外部生殖器官



ヤマヤチグモの変異 (氷山産) 雄の触肢



ヤマヤチグモの変異 (氷山産) 雌の外部生殖器官

現在詳しく調査中であるカミガタヤチグモにおいても但馬地方に変異の境界があるとされており、円山川－市川の線を境として西側で採集される個体はカミガタヤチグモに近似する別種ではないかと考えられた(西川, 1974; 山本, 1980)。しかし近年調査を進めるにあたり疑問を生じており、いずれ結果が得られれば詳しく述べたいと思う。

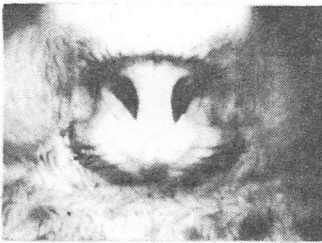
カミガタヤチグモの変異



雌の外部生殖器(香住町大樋産)



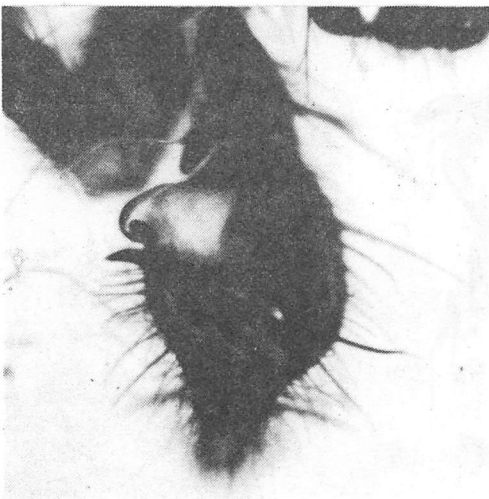
雌の外部生殖器(来日岳産)



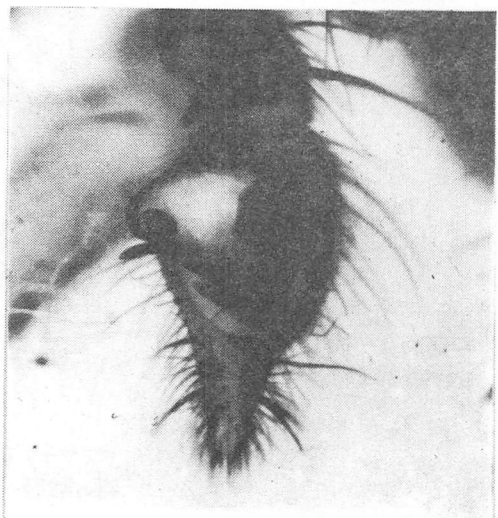
雌の外部生殖器(村岡町菰山産)



雌の外部生殖器(温泉町青下産)



雄の触肢(温泉町青下産)



雄の触肢(村岡町菰山産)

ヤマヤチグモに近い別種ヒメヤマヤチグモは、その記載産地に和田山土田（はんだ）が記されている。しかし但馬の北西部で採集される個体は、その分類の決め手となる生殖器や触肢の構造がヤマヤチグモとヒメヤマヤチグモの中間的な型をしており、その分化の中間的なタイプではないかと考えられるが、今後の調査に委ねるしかない。その他に米ノ山（関宮町側）・扇ノ山（温泉町側）の標高1000m以上の場所でまったく別のタイプの変異が見られる。いっそう詳しい調査を必要とする。

分布上特に注目する種としてダイセンヤチグモとイナバヤチグモの2種がある。新種記載以後そのタイプ産地以外では分布が確認されていなかったが、ダイセンヤチグモは米ノ山（関宮町）・扇ノ山（温泉町側）及び三川山（本庄私信）で分布が明らかとなった。

イナバヤチグモのタイプ産地は鳥取県若桜町（有田,1974）であり、分布して当然と思えるが、ダイセンヤチグモのタイプ産地は鳥取県大山（有田,1976）であり米ノ山とは地理的に多少距離があるので、調査しだいでその中間の地域から見つかる可能性は充分にある。

・生態からの考察

ヤチグモ属の分布や変異には生態上の特質が大きく関係していると思われる。

バルーニングを行わないことは先にも記したが、暗所を好む性質が行動を不活発にしているのではないだろうか。その住居は地表の落葉の間やガレ場の石の空間に長いトンネルとして作られ、そのトンネルを通行しようとする多足類や一部の昆虫を捕えるのではないかと考える。このような住居は小型のヒメグモやウスイロヤチグモ、カメンヤチグモに見られる。生息する環境を拡大しているクロヤチグモやメカネヤチグモ、ヒメシモフリヤチグモなどはトンネル住居の入口にロート状の網を作り、崖地のオーバーハングした場所などに住居を作るホラズミヤチグモや、草の茎の間などに住居を作るヤマヤチグモではテラスのようになった棚網が入口に作られている。

結婚の季節は多くの場合秋のようで、カミガタヤチグモなどでは10月上旬に森林の林床に落穴トラップを仕掛けると、雄ばかりが落ちている場合がある。多分、雌を求めて徘徊していたものだろうが、雌と出会った雄がどのような方法で求婚するのかまだ観察していない。

ヤチグモのメイティング（Mating = 交配）行動に関する観察記録は、今のところ知る限りでは見当らない。その行動がどのように行われるのか大変興味深い。特に変異のタイプの違う雌雄でははたして交接を行うかどうか分類の上で注目される。

産卵はクサゲモ同様産卵用の部屋を作り、その中で行われるようである。以前クロヤチグモとヤマヤチグモを飼育したとき、糸を膜状に張り巡らしたテントのような部屋を作り、その部屋の天井から卵のうが吊り下げられていた。親グモは子グモが出てくるまでテントの中で卵を保護し、子グモは誕生して卵のうから出るとしばらくはテントの中で過す。やがて穴を開けて外へ出ると四方へと走り去ってしまう。この段階ではバルーニングといった行動は見られなかった。

・あとがき

ヤチグモ属のクモ達に興味を持ち始めて4年になる。但馬地方のクモ類の分布を調べる意味で始めた事が、この属に含まれる様々の問題や未知の部分にまで興味が広がった。この属には特に注意して調査してきたが、まだまだこれからである。

現在、カミガタヤチグモの変異に特に注目して調査しているが、今までのような形態だけで判断するには割り切れない部分が多い。ヤチグモの生態はまだ大部分が調べられておらず、その観察は多くの事を明らかにしてくれるカギになる重要なものである。今後調査を進めるにあたり、その生態にもっと注意してクモの立場で考えてみたいと思う。

・参考とした文献

- ARITA, T. 1974. A new species of *Coelotes* (Araneae: Agelenidae) from Tottori Prefecture, Japan. *Acta Arachnol.*; 25(2): 41-43
- 1976. Three new *Coelotes* (Araneae: Agelenidae) from Tottori Pref., Japan. *Annot. Zool. Japan*; 49(3): 197-204
- 西川喜朗 1974. 日本産ヤチグモ属 (*Coelotes*) 総説. 追大文紀, (8): 174-182
- 1975. ヤチグモ (*Coelotes exitialis*) の分布と変異について (予報). 追大文紀, (9): 175-187
- 1977. 大阪府箕面産ヤチグモの一新種 *Acta Arachnol.*; 27 (sp. no.): 33-44
- 山本一幸 1980. 兵庫県北西部に産するヤチグモ属 (予報) *ATYPUS*, 77: 5-8